

## 2.現地概要ならびに1月8日までの対応状況 :経緯(2023/12/26 以降)

### ○2024年1月8日までの対応状況と予定

月日	工事等状況	現象把握等
12/23	深夜：発災	
12/24	被災者1名救助 崩土除去開始	コンサルタント会社による緊急現地踏査 大西有三京都大学名誉教授（近畿地方整備局任命の道路防災ドクター）による現地状況確認
12/25	崩土除去・法面掘削	緊急斜面調査
12/26	崩土除去・法面掘削	国土技術政策総合研究所、土木研究所による現地状況確認 第1回検討委員会開催
12/27	救助のための崩土除去・法面掘削	斜面監視・斜面調査
12/28	被災者発見（捜索活動終了）	斜面監視・斜面調査
12/29		UAV測量・熱赤外線調査実施
12/30-1/8		調査結果とりまとめ、整理
1/5		小山先生、橋本先生現地視察
1/6～	第2回法面掘削開始 地質調査の為にモノレール施工開始	
1/9		第2回検討委員会開催

## 2.現地概要ならびに1月8日までの対応状況

### 令和5年12月23日の崩土について

#### ①有識者（大西有三 京都大学名誉教授）の見解

##### 1. 今回の事象の原因について

・凍結融解が繰り返し発生したことにより岩盤の強風化部の緩みが進行し、不安定化したことによる崩壊であると考えられる。

##### 2. 応急対応について

・斜面上部の急崖部に残存する不安定岩塊を除去したうえでモルタル吹付を施工し、安全確保最優先で道路に堆積した崩壊土砂の除去作業を行う。

・不安定岩塊の除去は、調整可能であれば無人化施工を使用し、難しい場合は人力で行う。

・崩壊土砂を末端から除去した場合、上方に堆積した土砂が土砂移動により崩壊し、二次災害を起こす危険性があることから、上部より除去作業を行う。

・崩壊土砂の搬出は、崩壊箇所の両側から行う。

・除去作業中に車が見つかった場合、河川に落ちないようにロープで固定したうえで除去作業を行う。

##### 3. 恒久対策について

・現地調査結果を踏まえて、恒久対策工を検討する。

#### ②復旧作業状況

・12月24日13時から斜面上部になる不安定な岩塊の撤去を人力で開始（人力撤去が難しい箇所は、機械作業を検討）

・作業の支障となる防護柵の撤去（12月24日19時頃完了）

・NTTによる支障木の撤去（12月24日19時頃完了）

・不安定な岩塊を撤去するための機械作業（無人）が可能であることを現地確認作業中（12月25日11時時点）

・機械を設置でき次第岩塊の撤去作業開始予定（本日中に開始予定）

※並行して緊急車両の通行が可能となるよう林道サンギリ線の緊急的な修繕を実施（12月25日着手）



令和5年12月23日 崩落概要

延長L=約20~30m・深さW=約4~5m

高さH=約40m・崩壊土砂量V=約4,000m<sup>3</sup>

#### ③類似箇所の緊急点検

今回の現場と同様に応急復旧後、本復旧が未着手の箇所について、緊急点検を12月24日に職員により実施

（点検箇所）

・国道169号（上北山村白川）、国道310号（五條市上之町）、国道168号（十津川村長殿）、国道168号（十津川村旭）、国道425号（十津川村迫西川）

#### ④今後の方針

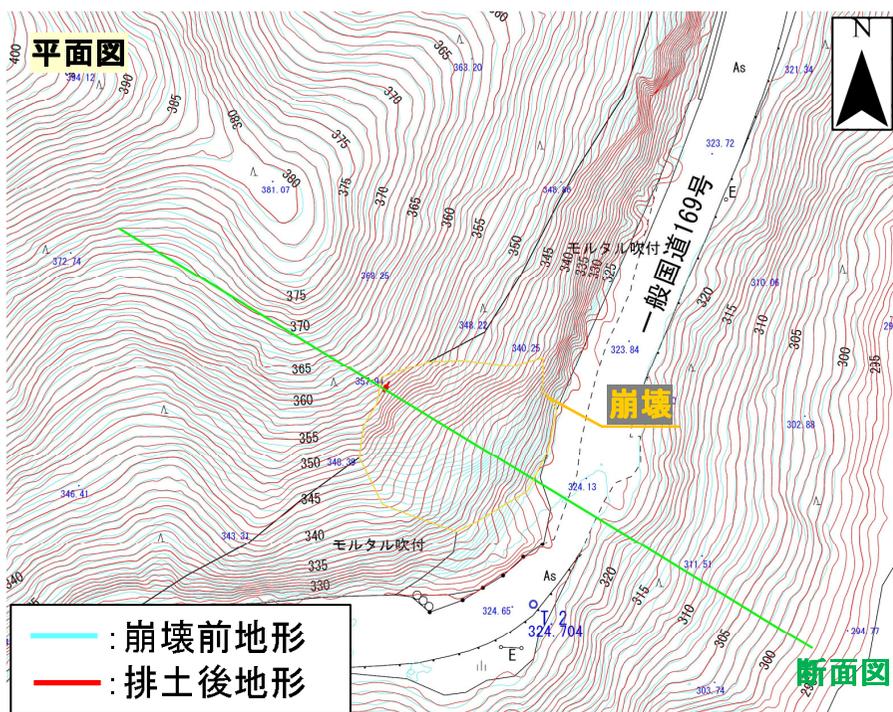
・早急に有識者委員会を立ち上げて、原因究明、復旧工法等の検討を進め、工法が決定次第速やかに工事に着手していく。

## 2.現地概要ならびに1月8日までの対応状況



推定崩壊土量: 68.03 m<sup>3</sup>/m

推定排土量: 61.35 m<sup>3</sup>/m



断面図

